

## DATA FILE (※非晶質)

|      |                         |
|------|-------------------------|
| 名前   | AMBER(アンバー)／琥珀          |
| 化学組成 | 一定しない (C,H,O から成る)      |
| 色    | 黄色、オレンジ色、茶色、黒色、赤色、乳白色など |
| 光沢   | 樹脂光沢                    |
| 蛍光   | 青白色                     |
| 条痕   | 白色                      |
| 劈開   | なし                      |
| 断面   | 貝殻状                     |
| 硬度   | 2                       |
| 比重   | 1.1                     |

琥珀  
AMBER

劈開はないが、ハンマーでたたくと貝殻状の断口を示す。

紫外線ライトを照射すると、青白色の蛍光を放つ。

バルト海から産出した琥珀の塊。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

摩擦により帯電する性質を持つ。

針葉樹から分泌された樹脂が地中で化石化してできる。





### 樹脂から成る有機質鉱物

琥珀は針葉樹などの樹木から分泌された樹脂が地中で化石化してできる有機質鉱物で、成分はとても変化に富んでいるが、どの琥珀にも炭素、水素、酸素のほかに微量の硫化水素が含まれている。質の良いものは透明度が高く、色はいわゆる「琥珀色」と呼ばれる黄色やオレンジ色、茶色などで、稀に赤色のものや不透明で乳白色のものもある。琥珀のなかには気泡や樹木の破片、葉などを含むものが見られ、昆虫やトカゲ、カエルなどが閉じ込められている場合は、姿がはっきり確認できるものほど価値が高い。

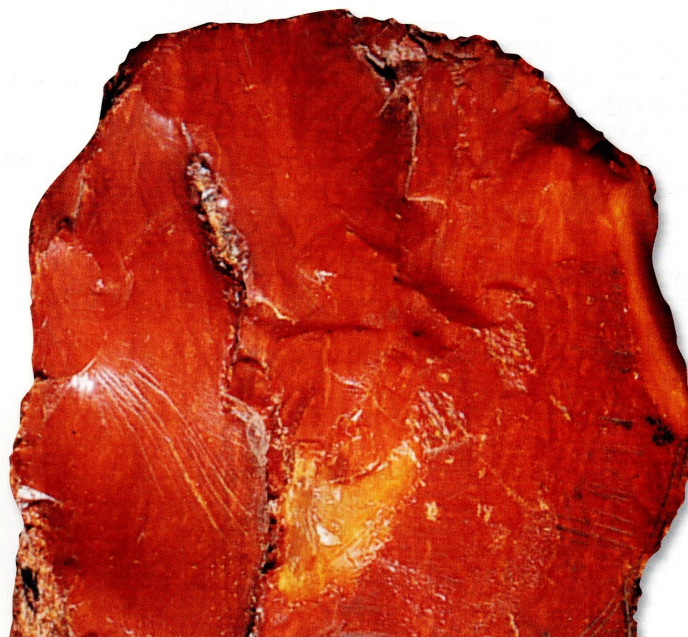
## 琥珀



▲昆虫が完全な姿で保存されている琥珀。

▶カッティングされた半透明の琥珀。

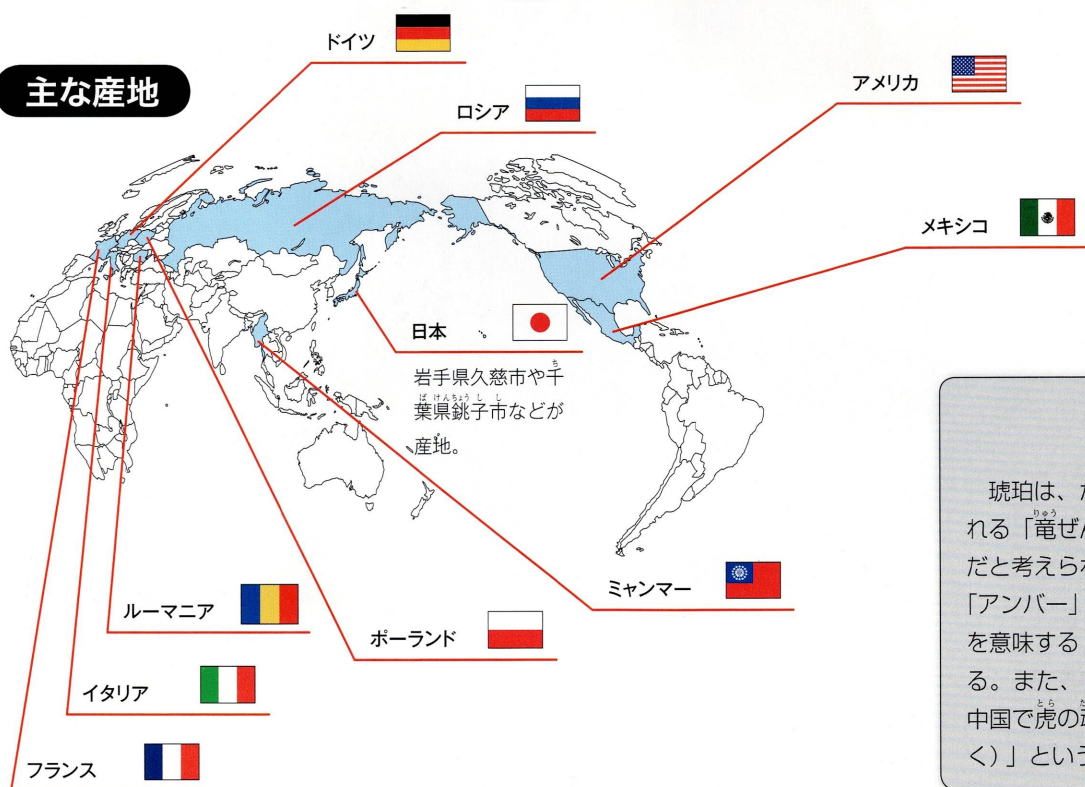
▼表面が酸化して赤色になったバルト海産の琥珀。



### 琥珀の産地

琥珀の産地として世界的に有名なのは、ドイツのバルト海沿いとロシアのカリーニングラード周辺だ。この地域では嵐などによる波で海底が攪拌されて、含まれていた琥珀が海岸に大量に打ち上げられ、場合によってはデンマークやノルウェー、イギリスの東海岸の波打ち際や浅瀬で見つかることもある。日本では岩手県久慈市が国内最大の産地として知られている。

### 主な産地



### 名前の由来

琥珀は、かつてマッコウクジラからとれる「竜ぜん香」という香料と同じものだと考えられていた。そのため、英名の「アンバー」はアラビア語で「竜ぜん香」を意味する「アンバル」を語源としている。また、「琥珀」という名称は、古代中国で虎の魂が石になった「虎魄（こはく）」という伝説がもとになっている。